

## 琵琶湖(湖心部)の水質概況速報(平成27年度(2014年度)第1四半期)

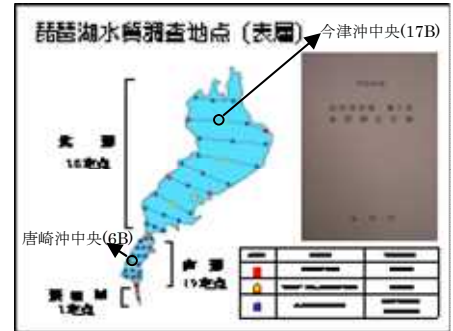
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第16条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、北湖・南湖各一地点における平成27年度第1四半期分の水質概況速報をとりまとめましたので報告します。

なお琵琶湖・瀬田川水質は北湖28地点、南湖19地点の年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値は平均値等の代表値とは異なること、後日修正を加えられる可能性があることをご承知おきください。

### ◎調査方法について

北湖28地点、南湖19地点、瀬田川2地点の計49地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の水深別調査は、当センターにおいては今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約90m地点今津沖中央(通称「17B」)、他1地点、南湖では唐崎沖中央(通称「6B」)において、月2回実施しています。



### ◎調査結果について

当センターで分担実施している北湖湖心部の今津沖中央(17B)、南湖湖心部唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成27年度第1四半期の水質概況は次のとおりです。

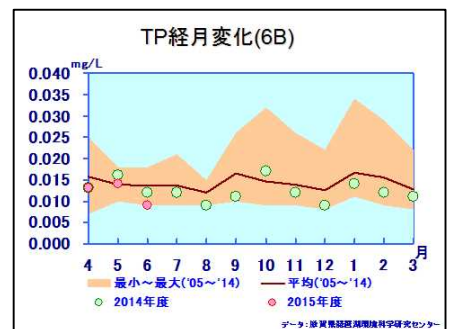
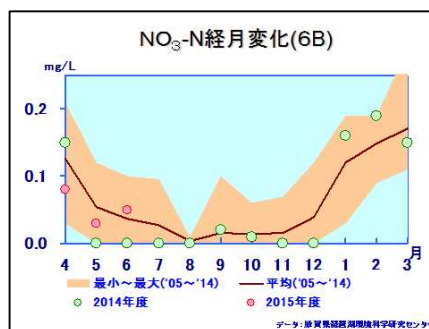
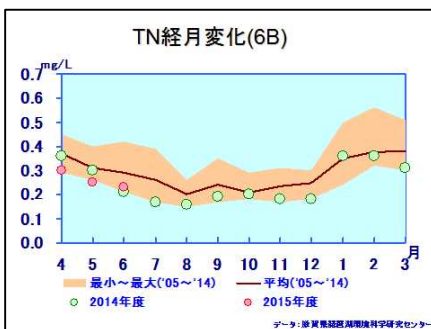
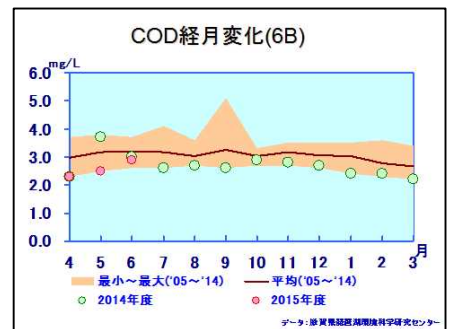
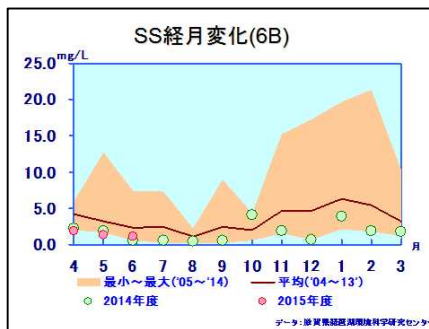
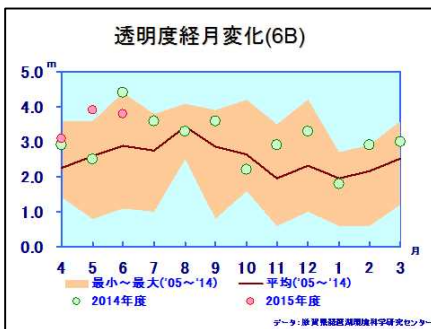
#### ○唐崎沖中央(6B)調査結果

透明度については、4、5、6月とも過年度(過去10年間)平均値よりも高い値でした。特に5月は過年度最高値(3.6m)を超える3.9mとなりました。

SSは4、5、6月とも過年度平均値よりも低い値となりました。特に透明度が過年度最高値を記録した5月は1.3 mg/Lとなり、過年度最低値(1.7 mg/L)よりも低くなりました。

有機汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、4月が2.3 mg/Lと過年度最低値(2.3 mg/L)と同値となりました。5月も過年度最低値(2.5 mg/L)と同値となりました。6月は過年度平均値並みの値でした。

富栄養化項目である全窒素(TN)は、4、5、6月とも過年度平均値よりも低くなりました。特に5月は0.25 mg/Lと過年度最低値(0.26 mg/L)よりも低くなりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)は4、5、6月とも過年度平均値並みの値でした。全りん(TP)は、4、5月は過年度平均値並みでしたが、6月は過年度最低値(0.009 mg/L)と同値となりました。



○今津沖中央 (17B) 調査結果

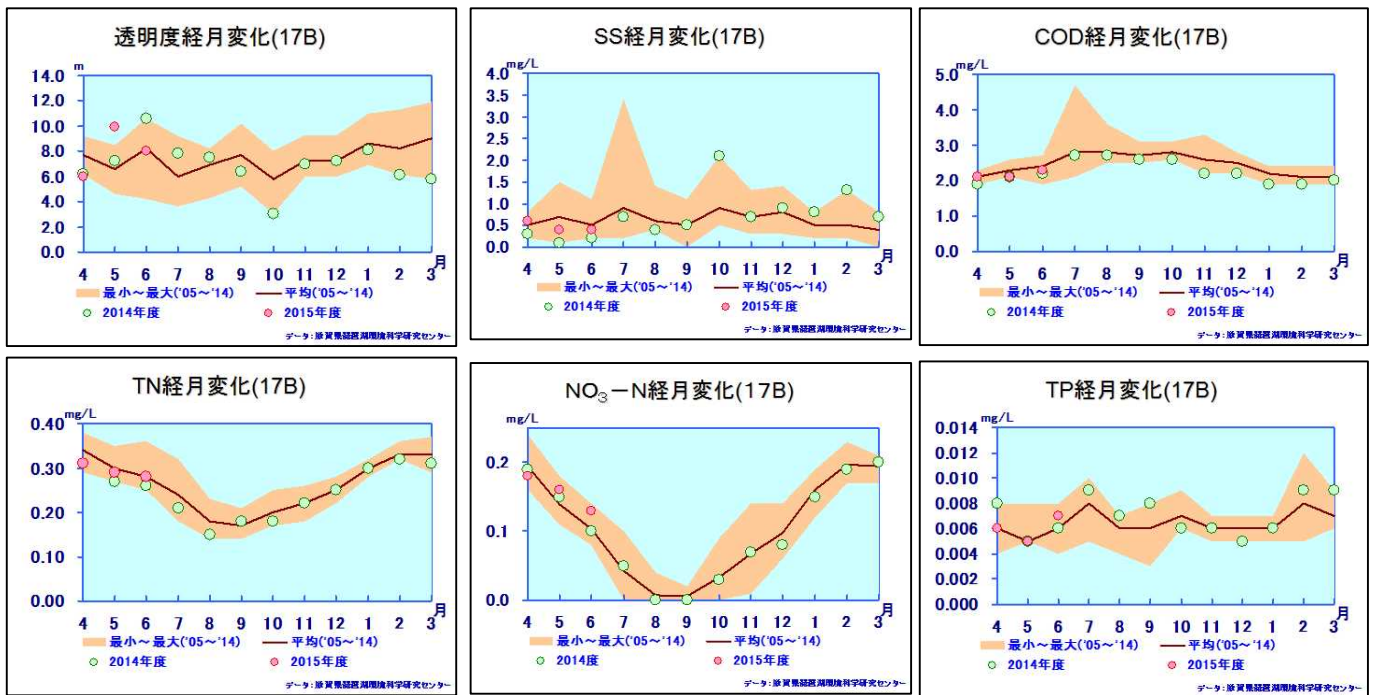
透明度については、4 月は 6.0m と過年度最低値(6.2m)よりも低くなりました。5 月は 9.9m となり一転して過年度最高値(8.5m)よりも高くなりました。6 月は過年度平均値並みの値となりました。

浮遊物質(SS)については、4 月は過年度平均値並みの値となりました。5、6 月は過年度平均値よりも低い値となりました。

COD については、4～6 月は過年度平均値よりも低く、特に 5 月は 2.1 mg/L と過年度最低値と同値となり期間を通じて低い値となりました。

全窒素(TN)は、4、5、6 月とも過年度平均値並みの値となりました。全窒素の形態の一つである硝酸態窒素(NO<sub>3</sub>-N)は 4 月は過年度平均値並みの値でしたが、5、6 月は過年度平均値よりもやや高い値でした。

また、全りん(TP)は 4、5、6 月とも過年度平均値並みの値となりました。



《問い合わせ先》

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学センター

環境監視部門 公共用水域担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: [dc51400@pref.shiga.lg.jp](mailto:dc51400@pref.shiga.lg.jp)